令和３年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県北会場

科目　⑦特に配慮を必要とする子どもの理解

◆　伊藤講師より、虐待の種類や兆候、リスク要因、身体的虐待が現れやすい身体の部位などを分かりやすく講義していただきました。小松講師からは貧困についての現状や対策、取組について講義していただき、貧困の見えづらさから支援を求めづらい、求めようと思わないという懸念があることを学びました。支援員として子どもたちの様子を常に気をつけ、虐待や貧困で支援が必要な子どもを見逃さず助けられる存在になりたいと思いました。

◆　児童虐待の件数は近年増加が著しいこと、虐待による身体的・心理的影響及び発育・認知的発達への障害を防ぐため、早期発見・早期対応がとても重要であること、貧困の状況は次世代に連鎖することなどが分かりました。日常の様々な場面における子どもや保護者の小さな変化を見逃すことなく、気付いたときには職員間で情報を共有し関係機関と連携を図り、子どもたちの心身の健全な成長を確保できるよう努めたいと思います。

◆　支援員の対応として、私は自分のものさしで判断しがちになります。先入観を捨てて子どもと保護者の声に耳を傾け、受けとめていきたいです。年々増加する児童虐待件数に将来を悲観しますが、早期発見・早期対応できるように、子どもの状態や家族の状況を把握できるよう、また、必要に応じて専門機関につなげられるよう心掛けたいです。我が国にとって最大の資源は「人」であり、将来を担う子どもたちを責任を持って支援していきたいと思いました。

◆　児童虐待防止の対応の中で、事実経過の記録が必要になることは知っていましたが、虐待の証拠になる資料を可能な限り整えることについて改めて気付かされました。写真を撮るときにも傷だけではなくものさしも一緒に撮影すると良いことを知りました。子どもの貧困については知らないことがたくさんありました。子どもの貧困対策の推進が未来への投資になり、夢を諦めない気持ちにつながっていくので、そう出来るように協力を続けていきたいと思います。

◆　最近テレビやネットニュースなどで虐待の事件をよく耳にするようになった。やってはいけないことをやっている虐待、やらなきゃいけないことをやっていない虐待など様々なことで子どもたちに被害が起こっている。その被害を防ぐためにも私たち第三者が勇気をもって伝えることや話を聞いてあげることが大事だということが良く分かった。家庭の事情に立ち入ることは難しいが、子どもとの信頼関係を築き、小さなＳＯＳにも気付けるようにしていきたい。